

MWC 上海 2025
調査報告書
(Web 掲載用)

2025 年 6 月 24 日
OSS BroadNet Inc.

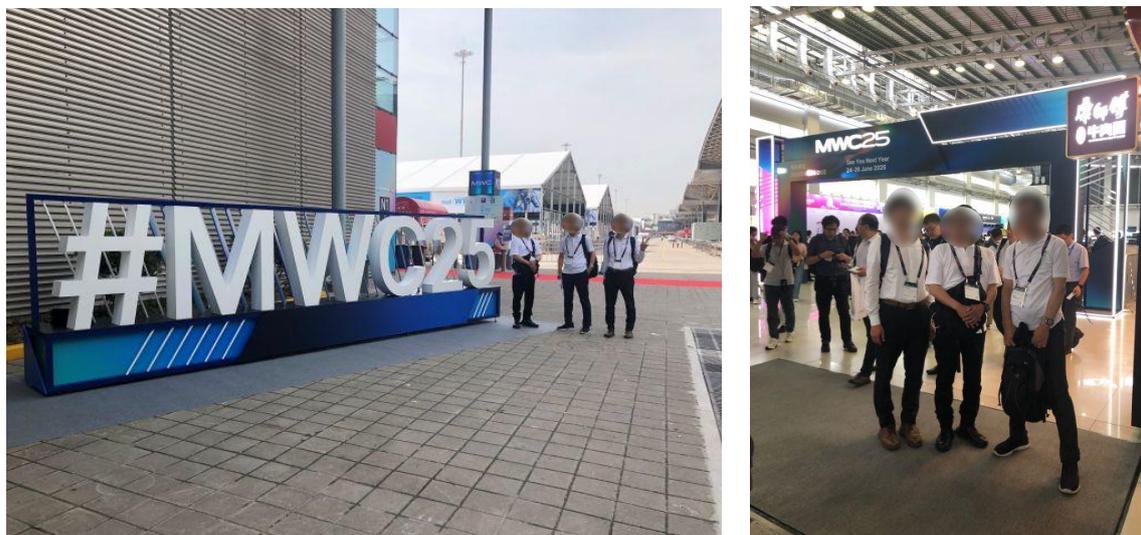
目次

1. 全体傾向	4
2. 第一日目 (6/18)	8
2.1 China Unicom	8
2.1.1 企業概要.....	8
2.1.2 展示内容・考察	8
2.2 Lenovo Corporation	10
2.2.1 企業概要.....	10
2.2.2 展示内容・考察	10
2.3 Whale Cloud	12
2.3.1 企業概要.....	12
2.3.2 展示内容・考察	12
2.4 China Mobile	13
2.4.1 企業概要.....	13
2.4.2 展示内容・考察	13
2.5 ZTE Corporation	15
2.5.1 企業概要.....	15
2.5.2 展示内容・考察	15
2.6 Baicells Technologies	18
2.6.1 企業概要.....	18
2.6.2 展示内容・考察	18
2.7 Honor	19
2.7.1 企業概要.....	19
2.7.2 展示内容・考察	19
2.8 Viavi Solution	20
2.8.1 企業概要.....	20
2.8.2 展示内容・考察	20

3. 第二日目（6/19）	21
3.1 Huawei Technologies	21
3.1.1 企業概要	21
3.1.2 展示内容・考察	21
4. その他	24
4.1 上海公共交通機関への試乗	24
4.2 上海市景（上海市の現状視察）	25
4.3 上海市景（オプションアクティビティ）	26

購入者の属する組織内での報告以外の目的での本書の複製・配布・流用・加工を禁じます。
表現の簡便の為、本書中に登場する各企業様の社名への敬称は、全て省略しております。
同様の理由から、各社の登録商標・商標への®または TM マークの付記は、全て省略しております。

1. 全体傾向



2025年6月、中華人民共和国浙江省上海市内のSNIECで、MWC上海2025（以下MWC上海）が開催された。

GSMAの公式情報によると、2025年の出展社数は約400社であり、2024年の約250社に比較すると一気に1.5倍規模に増えた事になるが、参加者数ベースで見ると、2025年は約4万5千人であり、2024年の約4万人から5千人程の増加だったとの事。2025年の来場者傾向は、全体の40%以上が携帯以外の業界との事で、MWCバルセロナ同様、MWC上海も内容の変質が進んでいる様子である。

今年のコンセプトは昨年に引き続き、人工知能(AI)を中心とした融合(Converge)、連結(Connect)、創造(Create)の3つであったが、具体的な展示テーマとしては以下の4つがGSMAにより予め示されており、各社共これらの公式テーマに基づく展示を行っていた。

1. 5G Inside

5Gの更なる進化が産業にもたらす様々な影響。5G-Advanced (5G-A) や6Gへの展望も含まれる。

2. AI+

人工知能(AI)の産業全体や人間活動への浸透。生成AI、エージェントAI、インテリジェントシステムなど。

3. Connected Industries

AI、IoT、プライベート5G、インダストリー4.0、スマート工場、自律型ロジスティクス、リアルタイムサプライチェーン等の応用事例。

4. Connected Enablers

モバイルエコシステムがデジタル変革を推進し、新たな可能性を切り開くための基盤となる技術・サービス。

MWC 上海は、SNIEC の北側ホール群（N1～N5）と会場に隣接する Kelly Hotel 内のイベントスペースで開催された。SNIEC には他にも東側・西側にホール群があるが、これらの一部では他の展示会が開催されており、残りは不使用状態だった。

会場への最寄り駅は上海市営地下鉄の花木路駅であり、同駅の 1 番出口に繋がる Kelly Hotel 地下の小規模な小売店舗&飲食フロアを 1 分程歩き、エスカレーターを上って地上に出た目の前が会場への入り口であった。MWC バルセロナのような大規模ではない事が幸いし、展示会由来の混雑・渋滞は左程でもなく、会場へのアクセスに特段の不便は感じなかった。



N1 ホールは、主通路側から半分程を、筆頭出展社である Huawei と中国 3 大キャリアの一角である China Unicom（中国聯通：3 位。他 2 社より廉価な料金プランが特徴）の 2 社が占めていた。

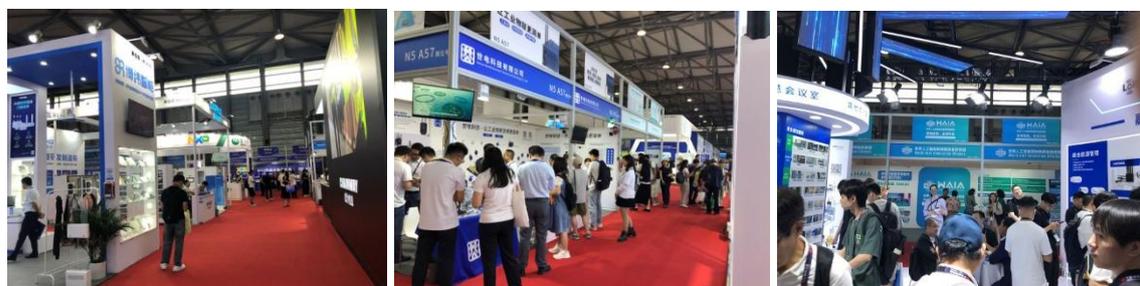
N2 ホールは、主通路側から 1/3 程を Lenovo と Sier の SI-TECH、中国 5 大自動車メーカーの 1 角である長安汽車（本社：重慶市）が占め、中程に GSMA の総合展示、後方に同じく GSMA の Innovation Frontier ゾーン、4YFN、5G 特設ゾーンが続いていた。



N3 ホールは、中国三大通信キャリアの China Mobile（中国移動：1 位）、China Telecom（中国電信：2 位）に加え、5G 移動通信特化型の通信事業者である中国信科集団（2018 年 7 月設立（国営企業）、本社：湖北省武漢市、従業員数 3.8 万人）、中国三大通信キャリアが出資する通信塔インフラの建設・保守会社である中国鉄塔（2014 年 7 月設立、本社：北京市）、ZTE の計 5 社で全スペースを占めていた。

N4 ホールは、主通路側に中華版 STARLINK である SPACESAIL（上海市が出資する国営企業。低軌道衛星による衛星インターネットサービスを手掛ける）ほか 13 社、奥側に上海市が運営母体である ZKJI 張江ハイテクパークの支援対象企業、上海浦東新区の金橋開発区を拠点とする国営ディベロッパーである上海金橋グループと支援対象企業が、様々な上海発の技術・製品・サービス・プロジェクトを展示していた。

N5 ホールは、IoT 関連技術・製品の併催展示会である IOTE が占有していた。



MWC バルセロナと異なり、Ericsson、Nokia 等欧米のメジャーな通信メーカー勢、近年の存在感増が著しい AWS、Google、Microsoft 等のプラットフォーマー勢、日米欧の主要通信キャリア勢、日韓台のメーカー勢の出展が、MWC 上海では殆ど見られなかった。

各国政府の政治的な意向を受けての状況だったのかも知れないが、この類の国際政治的な視点からの分析・考察は、本報告書の主旨から逸脱するので敢えて控える。

前述の 4 つの展示テーマという切り口では、MWC 上海と MWC バルセロナの間にさほどの違いは見られなかったが、Huawei を筆頭とする主要メーカー各社の展示方針には大きな違いが見られた。というのは筆者が各社の説明員をヒアリングして廻った所、本展示会での主な対象聴衆（国）は欧米・日韓等の西側諸国ではなく、中国本土、及び、アフリカ・中近東諸国との事であった。

中国本土は今も国家が通信事業を厳格に統制・管理しており、Camara 等のネットワーク API 的なアプローチは、技術以前に国の方針から逸脱するため実需に乏しい。翻ってアフリカ・中近東諸国では、中国本土ほど統制が厳しくない一方で、技術規格の国産化志向が弱く、所要の機能・性能が達成されている限り、Camara API 等欧米メーカー主導の標準化活動への追従にも左程の拘りはなく、基本的にはコスパが最優先事項となる。

恐らくは上述の背景のため、MWC バルセロナの主要テーマであった Camara API の展示は MWC 上海では皆無、欧米系の技術標準としては TM Forum の”Ready for ODA”ロゴが散見される程度であり、OPEN RAN も、左程の積極的な展示は見られなかった。製品・サービスの内部構造や実装技術に踏み込んだ展示も少なく、工場・公共施設・教育等 BtoB への 5G & AI の応用ユースケースが主流である印象を受けた。

日欧米市場でも一定の存在感を持つ Huawei、ZTE、Lenovo の展示は何れも、MWC バルセロナで多く見られたファンタジーな内容ではなく、割合に現実的な内容が多かった。但し AI だけは別で、主要メーカーに 3 大キャリア迄を含めた各社が、筆者には些か度が過ぎるのではと感じられる程に、AI 一色に染まっていた。Open AI や Nvidia 等による寡占への警戒心から DeepSeek 等の国産 AI を後押しする国の方針も、これらの AI 狂騒曲といった感じの現状に、ある程度影響しているのかも知れない。

スマホ・タブレット類の展示は、各社共に控えめだった。

4YFN は、MWC バルセロナに比べると極端にスペースが少なく、出展企業数も 35 社と小規模であり、左程の活気は感じられなかった。MWC 上海は、成熟企業同士の更なる飛躍を目指したビジネスマッチング促進がメインであり、単純なベンチャー支援にはあまり力点を置いていないのかも知れない。

中国政府・工業情報化部が 2024 年 1 月に発表した 2023 年度版「通信運營業統計公報」によると、2023 年度の中国本土全体の業務収入額は、前年度比 6.2%増の 1 兆 6800 億元（約 34 兆 5000 億円）。特に伸び率が高いのはデータセンター、クラウドコンピューティング、ビッグデータ、IoT で、これらの合計業務収入額が前年度比 19.1%増の 3564 億元（約 7 兆 3282 億円）、うちクラウドコンピューティングとビッグデータは何れも同 37.5%増で、IoT は同 20.3%増との事。

2023 年度の携帯電話契約数は 17 億 2700 万件、うち 5G 携帯電話は 8 億 500 万件であり、5G 化率は約 47%。一昔前の GSM&W-CDMA 全盛期には海外技術への依存度が高かったが、今は国策もあり、中華 5G への置換が進展著しい様子。

翻って無線・有線の対比視点では、2023 年度の携帯電話契約数は 17 億 2700 万件、5G 携帯電話は 8 億 500 万件。一方で固定ネット接続は、業務収入額が前年度比 7.7%増の 2626 億元（約 5 兆 4000 億円）、契約数は 6 億 3600 万件、うち最大通信速度 1Gbps 以上の光契約数は 1 億 6300 万件との事。固定ネット接続の伸び率 7.7%が通信事業全体の伸び率 6.2%を上回っている点が興味深い。成熟期に入った無線通信の BtoC 市場に対し、データセンター等の BtoB 市場が伸びており、安定性・信頼性の観点から、改めて有線が見直されている事の顕れであろう。

上述の現状を反映してか、各社の展示は何れも BtoB 重視の傾向が強かったように思う。

4. その他

4.1 上海公共交通機関への試乗

上海トランスラピッド（以下「マグレブ」）は、上海浦東国際空港駅と龍陽路駅間の約 30km 間を約 8 分弱で結ぶリニアモーターカーであり、中国の経済発展の象徴として、2003 年 1 月の開業以来多くの注目を集めて来た。マグレブは常温電導方式のリニアであり、日本の超電導方式とは原理が異なる。最高速は 431km/h だが、現在は 300km/h に制限した状態で運行している。上海地下鉄（以下「上海メトロ」）は、上海市交通局が運営する公共交通機関であり、開業から 30 年超が経過した現在、マグレブ・ライトレールを含めると、その総延長は 800km に及ぶ。上海メトロの運賃は、乗車距離によって決まる「距離制」であり、初乗りは 6km まで 3 元で、その後 10km 毎に 1 元加算される。例えば 10km 乗車なら 4 元、20km 乗車なら 5 元である。マグレブの運賃は片道 50 元（約 1000 円）であり、同一区間を約 40 分強で結ぶ上海メトロを利用すれば 7 元（約 140 円）で済む事から割高感が強く、地元住民の乗車は少なく、乗客の殆どは上海外からの観光客か、少しでも時間を節約したいビジネス客である。運行時間は、始発が朝 7 時頃、最終が夜 21 時過ぎ頃で、約 15～20 分間隔で運行されている。

本ツアーでは、空港（ホテル）・MWC 会場間の足として、敢えてマグレブ&上海メトロを積極的に活用し、上海市内における公共交通機関の現状を実体験した。ツアー翌日からの MWC 視察では、宿泊した空港内ホテルから歩いて 5 分程度のマグレブ空港駅から MWC 会場最寄り駅である上海メトロ花木路駅間を、マグレブとメトロを乗り継いで移動した。乗車チケットは、マグレブ往復+上海メトロ 1 日乗り放題券、上海パス IC カード、AliPay を、状況に応じて使い分けた。

左：マグレブ車両外観、中：マグレブ空港駅、右：上海メトロ南京東路駅



マグレブ・上海メトロ共、電光掲示板の到着予想時間が正確で、乗継表示も分かり易く、日本の都市部の地下鉄を利用している感覚に近いものがあった。

4.2 上海市景（上海市の現状視察）

上海市は中華人民共和国の直轄市であり、中国台湾海峡沿海部の江蘇省・浙江省に隣接し、長江河口と杭州湾に南北を挟まれ、所謂長江デルタに位置する。2023 年時点の常住人口は 2487 万人、面積は 6,340 km²である。

上海中心部にある外灘（バンド）は有名な海沿いの遊歩道で、この一帯には植民地時代の建物が並んでいる。外灘から西方向に歩行者天国が伸びる南京路は、同市最大の繁華街である。

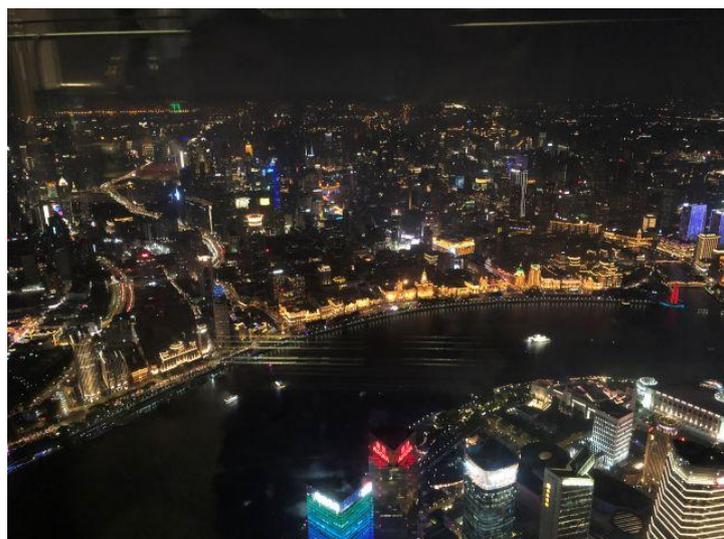
黄浦江の対岸にある浦東地区の近未来的な街並みには、632 m の上海タワーや、ピンクの球体部が特徴の東方明珠電視塔などがある。上海市から車で西に 1 時間半程行くと、中国の古風な街並みが残る朱家角水郷があるなど、新旧様々な姿を楽しめる。

本ツアーでは、MWC 前日夕方に外灘地区と南京路を、MWC 第一日目夜に発展著しい浦東新区の現状を視察し、躍動する上海のダイナミズムを体感した。

左：外灘から臨む浦東新区の高層建築群、右：南京路の歴史的建造物の一つである Peace Hotel



左：上海タワーからの外灘ライトアップ夜景、右：上海タワーからの浦東新区の高層ビル群



4.3 上海市景（オプションアクティビティ）

本ツアーでは、MWC 第二日目午前中に中国の古風な街並みが残る朱家角水郷を視察し、凄まじい速度での経済発展の一方で、失われゆく歴史遺産を保存・維持する事の文化的な重要性を再認識し、生活・工業廃水により一度は汚染された運河・水路の水質再生を含めた貴重な歴史地区の保存・維持に取り組む上海市の今を体感した。

左：水郷風景。観光用に歩道を舗装、右：舟の接岸地点。生活用水に使える程に水質が回復



左：街並み。家屋高制限有、全屋空調完備、右：嘗ての地元富豪の邸宅を市がリノベした庭園

